

## 第33回プログラミング・シンポジウムの開催に際して

早くも一年が過ぎて新春 8 日～10日には第33回のシンポジウムを迎える運びとなった。1960年の第1回の頃からの変遷を考えると、ハードウェアの指数的发展と共に計算機の科学的利用、応用システムの活用も大きく伸びて来た。ソフトウェアの面でも開発環境の人間向き進展、高水準言語や対象指向言語による人間能力の掘出しなどが着目される。

更に通信技術とその活用意欲の発展から、グループウェアというような開発の仕組が現実化されて来て、その効果が期待される。

このような進歩の動向は当然このシンポジウムにも反映されて、回を追う毎に発表内容や討論は時代の要求を先取りした感覚のものが出来て来ているが、先取りをもう一步進めて、「メタソフトウェア」ともいうべき方向を考えたい。

それは

(A) ソフトウェアによるソフトウェアの再生産

(B) 頭脳による頭脳の再生産（教育）とそれを支援するソフトウェア

というような方策である、この方向でのより進んだ議論は諸賢に委ねるとして、このシンポジウムの雰囲気としてもそういう気分で進みたいと思う。

各発表に対する参加者の積極的な反応がのぞまれる。発表者本人への進言はもとより、指導教官へのコメントなども、このシンポジウムにふさわしい意見の場として歓迎したい。

プログラミング・シンポジウム委員会

委員長 米田 信夫

本 PDF ファイルは 1992 年発行の「第 33 回プログラミング・シンポジウム報告集」をスキャンし、項目ごとに整理して、情報処理学会電子図書館「情報学広場」に掲載するものです。

この出版物は情報処理学会への著作権譲渡がなされていませんが、情報処理学会公式 Web サイトに、下記「過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について」を掲載し、権利者の検索をおこないました。そのうえで同意をいただいたもの、お申し出のなかったものを掲載しています。

[https://www.ipsj.or.jp/topics/Past\\_reports.html](https://www.ipsj.or.jp/topics/Past_reports.html)

#### 過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について

情報処理学会発行の出版物著作権は平成 12 年から情報処理学会著作権規程に従い、学会に帰属することになっています。

プログラミング・シンポジウムの報告集は、情報処理学会と設立の事情が異なるため、この改訂がシンポジウム内部で徹底しておらず、情報処理学会の他の出版物が情報学広場 (=情報処理学会電子図書館) で公開されているにも拘らず、古い報告集には公開されていないものが少からずありました。

プログラミング・シンポジウムは昭和 59 年に情報処理学会の一部門になりましたが、それ以前の報告集も含め、この度学会の他の出版物と同様の扱いにしたいと考えます。過去のすべての報告集の論文について、著作権者（論文を執筆された故人の相続人）を探し出して利用許諾に関する同意を頂くことは困難ですので、一定期間の権利者搜索の努力をしたうえで、著作権者が見つからない場合も論文を情報学広場に掲載させていただきたいと思います。その後、著作権者が発見され、情報学広場への掲載の継続に同意が得られなかった場合には、当該論文については、掲載を停止致します。

この措置にご意見のある方は、プログラミング・シンポジウムの辻尚史運営委員長 ([tsuji@math.s.chiba-u.ac.jp](mailto:tsuji@math.s.chiba-u.ac.jp)) までお申し出ください。

加えて、著作権者について情報をお持ちの方は事務局まで情報をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

期間： 2020 年 12 月 18 日 ~ 2021 年 3 月 19 日

掲載日： 2020 年 12 月 18 日

プログラミング・シンポジウム委員会

情報処理学会著作権規程

<https://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/copyright.html>